

2022 年 6 月 10 日

エアバスと関西エアポート、日本における水素の利活用検討で連携

エアバス（本社：仏トゥールーズ、最高経営責任者：ギヨム・フォーリ）と関西エアポート株式会社（本社：大阪府泉佐野市、代表取締役社長 CEO：山谷 佳之）は本日、関西 3 空港（関西国際空港、大阪国際空港、神戸空港）において水素を動力とする航空機の運航の実現に向けて協働するため覚書を締結したことを発表します。

エアバスと関西エアポートは今後、航空機の水素利用に必要な政策提言と課題への取り組みに向けたロードマップを共同で作成し、航空分野において水素を利用するためのインフラ整備を先導していきます。

両社はそれぞれの専門分野における知見を生かしながら、水素がもつポテンシャルの活用機会を明確にし、航空業界の脱炭素化を支援します。エアバスは、航空機の実用性、航空機のエネルギー使用量、水素燃料航空機の地上作業に関する情報を提供します。一方、関西エアポートは、水素燃料航空機の導入に向けて、空港で必要とされるインフラ整備のための検討を行います。

エアバスのノースアジア地域代表およびエアバス・ジャパン株式会社の代表取締役社長のステファン・ジヌーは次のように述べています。

「日本を代表する空港を運営する関西エアポートが、水素社会の実現に向けたパートナーとして加わったことを嬉しく思います。水素は再生可能なエネルギーから作ることができ使用時に排出ガスを出さないため、最も有望なゼロエミッション技術の一つです。再生可能な水素は航空機だけでなく、空港で利用されるすべての地上交通設備の脱炭素化にも貢献します」

関西エアポートの山谷 佳之代表取締役社長 CEO は次のように述べています。

「関西エアポートグループは 2050 年までに温室効果ガスの排出量を実質ゼロとする目標を掲げ、水素の利活用など環境への負荷を低減するための様々な施策に取り組んでいます。このたびのエアバスとの提携は、空港並びに航空分野における脱炭素化に寄与するもので大変うれしく思います。」

また、同社代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロは次のように述べています。

「エアバスと水素導入をリードするバンシ・エアポートによる航空分野の脱炭素化に関する共同の取り組みを、日本においても展開できることをうれしく思います。日本は水素の利活用において、非常に活発に取り組むことのできる環境が整っています。」

エアバスは、すでにフランスのバンシ・エアポートを含む世界各国の空港と提携し、航空業界における水素利用促進をリードしています。先月締結した川崎重工業株式会社との覚書締結に続き、日本での空港運営会社との提携は今回が初めてであり、日本における水素社会の実現に向けた協働を進めていきます。

Follow us



If you wish to update your preferences to Airbus Communications, media@airbus.com
If you no longer wish to receive communications from Airbus, media@airbus.com



エアバスのノースアジア地域代表およびエアバス・ジャパン株式会社代表取締役社長のステファン・ジヌー(左)と関西エアポートの代表取締役副社長 Co-CEO ブノア・リュロ (右)

Newsroom

リリースに関するお問い合わせ先

エアバス・ジャパン株式会社

藤宗宇多子
03-5775-0133
utako.fujiso@airbus.com

野坂孝博
03-5775-0129
takahiro.nosaka@airbus.com

関西エアポート株式会社

グループコーポレートコミュニケーション部
072-455-2201
pr@kansai-airports.co.jp

Follow us



If you wish to update your preferences to Airbus Communications, media@airbus.com
If you no longer wish to receive communications from Airbus, media@airbus.com